

市長対談

夢を実現できるまち 誇れるまちに向かって

in つむぎやTatemachi 2.0

鳥取市
ふかざわ よしひこ
深澤 義彦 市長

松江市
うえさだ あきひと
上定 昭仁 市長

築150年以上の古い町家を活用した複合施設「つむぎやTatemachi2.0」(松江市堅町)を視察させていただきました。歴史ある施設の中にスタジオやシェアオフィス、蕎麦店などがあり、新しい息吹を感じられます。古い歴史や文化、新しい空気が重なり、新たな松江のまちづくりが始まりそうですね。

「つむぎや」は、多彩な機能を有する、使い勝手のよいスペースになっています。古民家や空き店舗を再生して、情緒あるまちなみの景観を守りながら、新しい発想や革新的な技術を取り入れて、松江の発展を実現したいと考えています。

つむぎやTatemachi2.0とは

松江市堅町にある築150年以上の古い町家を改修して、シェアオフィスや配信スタジオ、交流スペースなど6つの機能を持つ複合施設としてオープン。地元商店会が管理維持を行い、商店街に新たな人流・にぎわいを生み出したいとの願いがこもる。



子育て支援

深澤市長 鳥取市は「いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしやすくなる、自信と誇り、夢と希望に満ちた鳥取市を目指すこと」を将来像に掲げた総合計画を、2022年3月に策定しました。「人を大切にすることを「つむぎや」を第一に掲げ、これからの将来を担う子どもたちにスポットを当てました。

妊娠・出産・子育てと切れ目のない支援をさらに充実させていく考えです。教育面では本年度、体験的学習活動を支援するため連休がながるよう5月2日と11月4日は小中学校や幼稚園などを休みにしました。保護者の有給休暇取得促進、教職員の働き方改革に加え、何よりも子どもたちが休日に地域住民と触れ合う機会を増やしてほしいと考えたからです。休むことができない保護者のために、児童クラブの開設も行いました。

全国で取り組みが進む「GIGAスクール構想」に基づき、小中学生にタブレット端末を一人1台配付し、学校のWiFi環境も整備しました。情報通信技術(ICT)に慣れさせてもらうことも、コロナ禍の中でタブレット端末を使って、自宅でもオンライン学習ができるというメリットもあります。外国語教育ではオンラインで海外の人と英会話授業を行うこともできます。

上定市長 松江市は「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」を将来像に掲げた総合計画「MATSU E DREAMS 2030」を2022年3月に策定し、「ここに生まれてよかった、ここで育ててよかった」をキャッチフレーズに、子育て環境の充実化に力を入れています。

子育て世代は、ほとんどの方がスマートフォンを使いこなすなど、ITリテラシー(ITを理解・操作する力)が高いことから、発展の目覚ましいデジタル技術を活用した行政サービスを使っていたことで、子育てをサポートしたいと考えています。

メッセージアプリの「LINE(ライン)」を使って、AI(人工知能)が子育てに関する質問に回答する「まっすの子育てAIコンシェルジュ」は、24時間365日いつでも相談できるのが好評で、現在1,800人の方に利用登録いただいています。また、お子さんが急病になったときに、スマートフォンから簡単に病児保育を申し込める「あずかるこちゃん」というシステムを導入して、働く保護者を後押ししています。

保育所の入所選考・マッチングにもAI技術を導入しました。希望される保育所や入所条件を動線したうえで施設を割り当てた膨大な作業に、従来は1週間を要していたのですが、これをなんと10秒に短縮することができました。デジタル化による行政手続きの簡便化・効率化によって、子育てしやすい環境づくりを進めてまいります。

商店街の再生

上定市長 松江市では商店街の再生に力を入れていて、「職人」本物をキーワードに松江にしかない魅力を引き出したいと考えています。松江は江戸時代に城下町として栄え、松平不昧公が「茶の湯文化」を広めました。今もまちなかには、たっさんのお茶屋や和菓子店が店舗を構えるとともに、茶道具から派生して陶芸や漆塗りなども、ものづくりの伝統工芸も発展しました。

しかしながら、これまで職人技を直接目にする機会がなく、また、松江市民ですらものづくりの伝統文化を実感する機会も多くありませんでした。そこで、「匠」の手仕事を見て、体験できる空間を創るとうと、既存店舗のリノベーションのための補助制度を創設しました。松江の中心部にある漆器店では、元々3階で作業していた職人さんが、今はガラス張りにした1階のスペースで絵付けをしています。沿道から仕事の様子を眺められるのに加えて、職人の指導



のもと絵付け体験ができ、観光客の滞在時間の延長にもつながります。こうした店舗を「線」でつなぎ「職人商店街」を形成することで、中心市街地の回遊性と賑わいを高めていく計画です。

深澤市長 鳥取市でもコロナ禍で大きな影響を受け、商店街から客足が遠のいている中、ICTを活用したオンライン商店街の取り組みを進めている商店街があります。お買い得情報の発信に加え、大学生が店舗に出向いて取材し、情報発信して店舗の良さを知らせてもらっています。リアルイベントと組み合わせ、店舗の魅力を発信しています。



また、別の商店街では「みんげいみつけい」という取り組みを進めています。「鳥取民藝」をキーワードに開催した窯元の即売会では、人気の品が完売しました。コロナ禍を契機にICT

を活用した活動を促進したいです。

上定市長 「民藝」は松江にも根付いています。山陰には、日常生活の中に豊かな文化が残っているのが、そこに光を当て、磨いて、SNSなどで発信する循環を創ることで、まちの魅力をさらに高めていきたいですね。

松江市では、今年3月に「中心市街地エリアビジョン」を策定しました。中心市街地を6つのエリアに分け、国宝松江城周辺は、江戸時代の歴史・文化を今に伝えるまちなみの保存と形成、JR松江駅前前は、松江の玄関として来訪者が憩い、歩きたくなる空間の起点になることを計画しています。

このうち宍道湖周辺の「湖畔ゾーン」については、水辺の活用がテーマです。松江は「水の都」と言われますが、まだまだ生かす余地があります。そのために、宍道湖畔の白濁公園でフリースペースを開催し、鳥根県立美術館に隣接する岸公園にカフェを設けました。

中心市街地の「白濁本町通り」では、歩道を広げてキックンカーを乗り入れ、子どもたちのアート作品を展示したり、舞台を設営してバンド演奏が楽しめるなど、「まちあるき」を促す社会実験を実施しています。

また、古い建物をリノベーションする取り組みも進めています。歴史的な建造物を周遊するツアーを企画したほか、実際に飲食や物販店舗として活用してもらい、週末にイベントを開催して市民のみならず、週末にイベントを開催して市民のみならずに出掛けてもらうことで賑わいの創出を図っています。

新しいアイデアを積極的に取り入れて、市民のみならずに参加してもらいながら取り組んでいます。

深澤市長 鳥取市でも2015年から2017年にかけてリノベーションスクールを計4回開催し、若い市民が多く集まってくれました。リノベーションによりブックカフェを開いたり、アパートの屋上に庭を造って市民が集う場所にしたりと、中心市街地の活性化に貢献しています。

JR鳥取駅南側では、10月14日から2週間、キッチンカーなどに集まってもらうにぎわいの創出に取り組み、多くの方に来てもらいました。普段人通りがないところでもにぎわい創出が可能ということが分かりました。大規模な再開発事業というより、ウォーカーカブ(歩きたく



なる)なまちをつくるという視点を大切にしていきます。

鳥取城跡の整備も進めています。2005年度に策定した3期30年の「史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備基本計画」に基づいて復元整備を進めているところです。今後は二ノ丸のやぐらを整備し、観光の核の一つにしたいですね。

先日は、本市にとって初となる石垣のライトアップに取り組み好評だったので来年度以降も続けたいと考えています。歩いて楽しい、行ってみたくなる中心市街地を目指します。

今後の展望

深澤市長 この数年間、新型コロナウイルスが猛威を振るい、収束が見通せない状況です。さらにロシアのウクライナ侵襲による国際経済の変動、原油高騰、円安の進行、物価高騰など、厳しい状況で閉塞感が覆っています。しかし、鳥取の街の歴史や文化、さまざまな資源を最大限生かして未来を展望し、明るい街づくりを進めます。街のポテンシャル、可能性を生かす明るい未来を開けると考えています。

さらに、DX(デジタルトランスフォーメーション)も進めます。市民と一緒に進める未来を切り開きます。

上定市長 深澤市長のお考えやお取り組みはとても興味深く参考になりました。お話しがあった「リノベーションスクール」や、鳥取市が進めるSDGs(持続可能な開発目標)に関する施策については、早速参考させていただきま。同じ県庁所在地として、また中核市として、共通する課題や特長が多くありますので、さらに連携を深めなければなりません。特に、アフターコロナを見据えたインバウンド需要の取込みに向けて、山陰両県の多彩なコンテンツを広域的に組み合わせることで、その魅力を最大化していきたいですね。

今後ともよろしくお祈りします。

対談全編は
マール(CATV)で
放送します。

放送日

12月28日(水)

初回放送
21:30~

※リピート放送あり

